

概要文

一般国道58号平南橋補修工事について（事例報告）

北部国道事務所 名護維持出張所 ◎大城 朝一 ○金城 世喜

1. 目的

海岸汀線上にある橋梁については、塩害による劣化・損傷が著しい場合が多く、本橋も例外ではなく昭和56年に架設後、幾度と補修が繰り返されてきたが、平成20年に塩害による再劣化が確認されたため、補修工事を行った。

2. 内容

今回本橋において、実施した橋梁補修の内容を報告し、塩害により劣化・損傷が進行した橋梁の補修方法の一例として紹介を行う

3. 結論

最新の道路橋示方書等により施工されていない架設年次の古い橋梁については、やはり塩害による劣化・損傷を受けることは不可避であり、今後、ますます老朽化していくストックに対して、減少していく維持費用の影響により、米国の様な荒廃した道路環境とならないよう、より経済的な補修方法を模索していかなければならない。

4. 今後の問題点

橋示による塩害の影響の度合いの地域区分(A)及び塩害の影響度合いと対策区分(S、I、II)から見ても沖縄県全体が大変厳しい腐食環境下にあり、今後も橋梁のみならず他の構造物も併せて対塩害について、検討していかなければならない。